



JAPIC NEWS

<http://www.japic.or.jp>

14	JAPIC	
40	JAPIC	
JAPIC		
	2002	10
JAPIC	2002	11
ADVICE (	)2001[] []	12
2001	()	15
No.144		16
		18
		19

《巻頭言》

「患者中心の医療」と医薬品情報提供

大日本製薬株式会社 取締役会長 渡守武 健
(JAPIC 理事)

今年はJAPICが財団法人になって30周年の記念すべき年であるとのことでおめでたい限りである。私自身、かつて研究開発部門に身をおき、揺籃期のJAPICの資料を活用させていただいたこともあり、その後の著しい変化を振り返ると感慨深い。

当初は、医薬品企業の医薬品情報の収集能力が未熟で、その情報収集と提供の多くをJAPICに頼ったと記憶している。その後の医薬品企業自身の医薬品情報収集能力の向上に応じ、JAPICは業務も高度化し、拡大しているが、常にその一歩先をみた活動で、医薬品情報に関する中心的役割を担ってきたと感じている。

現在、医薬品情報を取り巻く環境は大きな過渡期であるといえる。背景には、医療を取り巻く環境の大きな変化と急速なIT革新の進展がある。医療の高度化・多様化により、その求められる情報のニーズは質・量とも向上している。一方、医療は「患者中心の医療」へと大きく変化している。患者参加型、患者中心の医療が急速に進展しており、インターネットを中心としたIT革命がこれを加速している。

一昨年の米国FDAのphenylpropanolamine(PPA)の警告の際には、規制当局からのインターネットによる情報を、医療消費者がいち早くキャッチし、企業のくすり相談窓口にお問い合わせしてきたという事例が、日本製薬工業協会（製薬協）くすり相談対応検討会で報告されている。この事例は、海外を含めた医薬品情報が、行政、医療機関、医薬品企業とともに、医療消費者がタイムラグ無く情報の入手をする時代になったことを示唆している。

医療消費者（患者・生活者）の意識の変化は眼を見張るものがあり、従来のパターンリズムから、医療への積極的参画の動きがあり、治療においても自己決定を権利として主張する人々が出現している。医療消費者は、知る権利を主張し、そのための医療・医薬品に関する情報を、市販の書籍は言うにおよばず、インターネット環境・技術を駆使し収集し、自らの治療に参加しようとする。

従来は医療関係者と医療消費者の間には圧倒的な情報・知識の非対称性があったが、現在情報入手に関してはその差が無くなりつつある。新聞報道で医療関係者が患者と同時に情報を知るといった事態が医療現場で起こってきている。

医療消費者の情報の入手は、医療を阻害する要因になるととらえられた時代があった。しかし、患者への的確・迅速・科学的で判りやすい情報提供は、患者の納得を得、より良

い医療に結びつくと考えべき時代になっている。

医療消費者と医療機関とがよりよい関係を維持し、患者中心の医療推進のためには、製薬企業もその連携の輪に積極的に加わる必要があるかもしれない。

平成 13 年 9 月に厚生労働省の「医薬品情報提供のあり方に関する懇談会」の報告がまとまり、今後の医薬品情報提供のあり方の方向性が示された。医薬品総合情報ネットワーク構築をはじめ、医療関係者への情報の階層化による効率的・効果的な情報提供、患者・国民への情報提供の充実、医療関係者向け医薬品情報の内容の充実等が重要項目として掲げられている。

医薬品総合情報ネットワークについては、医療関係者・国民に判りやすい言葉で、利便性のよいシステムで、総合的情報提供、最新情報、国民への情報提供をコンセプトにしている。

IT を最大限活用し、医療関係者には、整理され、体系化されたあらゆるレベルの専門情報を多様なツールで入手可能にすること、医療消費者には知りたい内容を判りやすい表現で必要なときに提供しようという提案である。

このために行政、医薬品産業、医療機関とも、ニーズにあった情報提供が求められることになる。

医薬品の適正使用の推進は、医薬品企業にとって最大の課題であり、その実現のために医薬情報担当者（MR）を通じて提供する情報の質と量の向上に注力してきた。医薬品産業は、医薬品情報提供産業としての再認識をし、今後これらのニーズの変化、環境変化に応じ、情報の質の高度化、情報ツール多様化などに対応する必要がある。

医療関係者向けの情報提供の充実はもちろんであるが、医療消費者への情報提供についても、上記情報ネットワークに加え、双方向のコミュニケーションで適正使用の推進を図るくすり相談窓口の充実などそのニーズの多様化への対応も必要であろう。

医薬品情報専門機関の果たす役割も大きくなる。

前述の PPA の事例報告において、海外規制情報を迅速・確実・網羅的に入手し、対応することは企業にとって重要であるが限界があり、現在、海外の規制当局がインターネットで発信する医薬品などの安全性にかかわる措置情報（FDA、MCA など）を即日メールで提供する「JAPIC Daily Mail」がきわめて有用な情報ツールとなっていると報告された。

通常情報の入手は誰にも可能になった時代、専門家に向けての、インフォメーションに付加価値をつけ、高次化したインテリジェンスとしての情報提供が求められる。

医情懇報告に基づき、医薬品情報提供のあるべき全体像が徐々に具体的に示され、その役割分担が見えてくると考えられるが、その中にある、一企業では対応できないこと、行政の事業にはなじまないこと、個々の医療機関、学会などでは対応できない横断的事業、これらに JAPIC の果たす役割はきわめて大きいと思う。

「平成 14 年度 JAPIC ユーザ会」開催のご案内

日 時：平成 14 年 6 月 6 日（木）13：30 ～ 16：30

会 場：薬業年金会館 401（地下鉄谷町線 谷町六丁目駅から徒歩 0 分）
大阪市中央区谷町 6-5-4 TEL：06-6768-4451

申込締切：平成 14 年 6 月 3 日（月）

別紙申込書にご記入の上、業務部宛 Fax（03-5466-1814）でお申込み下さい。

プログラム：

13：30～13：40 主催者挨拶 理事長 首藤 紘一

13：40～14：00 平成 14 年度事業計画概要説明 常務理事 松本 和男

14：00～16：20 JAPIC 各種サービス概要説明 担当者

- ・複写サービスと著作権、所蔵資料、学会情報収集、図書館利用状況など
- ・JAPIC Daily Mail、JAPIC Q-サービス、JAPICDOC など
- ・添付文書に関する各種サービス

（15：00～15：20 コーヒーブレイク）

16：20～16：30 質疑応答

16：30 閉会

なお、16:30～18:00 402 号室で、参加者と JAPIC 役職員の気軽な懇親会を設けております。是非、こちらへもご参加ください。

〔申込・お問合わせ先〕

JAPIC 業務部（TEL：03-5466-1812 FAX：03-5466-1814）

平成 年 月 日

(財) 日本医薬情報センター 業務部 宛

(Fax : 03-5466-1814)

「平成 14 年度 JAPIC ユーザ会」参加申込書

☐ 6 月 6 日 (大阪薬業年金会館 401)

会 社 名			
参 加 者	氏名・所属 何名でも結構です	懇親会参加の有無 参加○、不参加×	
住 所	〒		
Tel		Fax	

1 社 (1 機関) 何名でもご出席いただけます。

「第 40 回 JAPIC 講演会」開催のご案内

< 主題：医薬品情報の活用 >

日 時：6 月 24 日（月） 14：00～17：00

会 場：日本薬学会長井記念館ホール

目 的：医薬品情報の提供・活用について、情報利用者側（医療機関）と情報発信者側（製薬企業）それぞれの立場から現状・課題などを発言していただき、医薬品情報について参加者の理解を深め、日常業務へ反映させていただくことを目的に開催いたします。

プログラム：

- | | | | |
|-------------|--|------------|-------|
| 14：00～14：05 | 主催者挨拶 | JAPIC 理事長 | 首藤 紘一 |
| 14：05～14：55 | 医薬品情報の提供と活用
- 情報発信元と受信者へのアンケート調査結果から -
北里大学薬学部大学院教授 望月 眞弓 先生 | | |
| 14：55～15：15 | コーヒーブレイク | | |
| 15：15～16：05 | 製薬企業の提供する医薬品情報の課題
日本製薬団体連合会安全性委員会委員長
宮城島 利一 先生 | | |
| 16：05～16：55 | 医師が必要とする医薬品情報
東京都多摩老人医療センター名誉病院長(JAPIC 会長)
上田 慶二 先生 | | |
| 16：55～17：00 | まとめ・閉会挨拶 | JAPIC 常務理事 | 松本 和男 |

参加費：JAPIC 会員（無料） 非会員（5,000 円）

申込締切：6 月 17 日（月）

申込・：（財）日本医薬情報センター（JAPIC）業務部
Tel 03-5466-1812 Fax 03-5466-1814

第 40 回 J A P I C 講演会

(主題:医薬品情報の活用)

平成 14 年 6 月 24 日(月)14:00－17:00 於:日本薬学会長井記念館ホール

参 加 申 込 書

会 社 / 機 関 名	
所 属 部 課 名	
氏 名 何名でも一緒に記入 して申込できます	
住 所	〒
Fax 番号	
Tel 番号	
E-Mail	
ご質問, ご提案	

Fax 送信先

(財)日本医薬情報センター (JAPIC) 業務部

0 3 - 5 4 6 6 - 1 8 1 4

「JAPIC データベース説明会」開催のご案内

目 的：JAPIC ではこれまでいろいろな形で「JAPIC データベース」の説明会を行って参りました。

今回、一步踏み込んで、会員のみなさまに直接 JAPIC へ来ていただき、小人数による木目細かい対話型の説明会を開くことにしました。また、この機会を利用して JAPIC 図書館などへも気軽にお立ち寄りいただき、JAPIC をご活用ください。

対 象：JAPIC 会員で実際に JAPIC データベースを使っている方はもとより、まだ JAPIC のデータベースを使ったことのない方を対象に考えております。
毎回 20 名まで（申込順）

日 時：毎月第 3 木曜日 15：30 ～ 17：30

場 所：JAPIC 3F 会議室

方 法：毎回データベースを 1 種ずつ取り上げます。
プロジェクターを使って、スクリーンで説明します。
小人数制で、対話型で行いますが、参加者の実技演習は行いません。

日 程：6 月 20 日（JAPICDOC 入門編） 7 月 25 日（JAPICDOC 入門編）

以後、9 月 19 日、10 月 17 日、11 月 21 日、12 月 19 日、
2003 年 1 月 16 日、2 月 20 日、3 月 20 日。
8 月（休み）。9 月以降の内容・日時は変更の場合もあります。
毎回、JAPIC HP（<http://www.japic.or.jp>）で内容・日程をご案内いたします。

参加費：無 料

担 当：JAPIC 技術渉外部・業務部 Tel：03-5466-1812 Fax：03-5466-1814

(初めてのJAPICDOC)

ご希望日に○を付けてください

1		0		15:30	17: 0
2		7	5	15:30	17:

: ()

/	
Fax	
Tel	
E-Mail	

3 Fax 03-5466-1814
JAPIC

「国際モダンホスピタルショウ 2002」への出展

「新世紀の健康・医療・福祉 - 安心と信頼を求めて」をテーマに、7月17日(水)～19日(金)までの3日間にわたり、東京ビッグサイト(東京国際展示場)で「国際モダンホスピタルショウ 2002」が開催されます。

当センターでは、医療連携を支援するIT最前線ソリューションコーナー E-73 において、“医薬品適正使用支援システム”『ファルマ・アシスト』の実演をメインに JAPIC データベースの検索実演等を行う予定です。

(業務部 TEL.03-5466-1812)



医薬情報を調べる人のための「JAPIC 医薬資料ガイド」2002 年版発行

上記資料ガイドを刊行しました。

これは JAPIC で所蔵する逐次刊行物（2002 年 4 月現在、国内雑誌 572、外国雑誌 85）FDA を中心とする薬事規制資料、WHO 刊行物、世界の医薬品集、薬局方、治験薬情報、医薬品の名称集、同義語集、副作用関連情報誌等の資料を収録しています。2002 年版では 39 カ国の医薬品集を 131 種、20 カ国の公定書 62 種について解説をしております。

また、JAPIC で提供している出版物、データベースの紹介、JAPIC 各種サービス料金表も掲載しました。

JAPIC 図書館資料の利用の手引書として、ライブラリアンのレファレンス業務の参考書として、また、参考図書購入のツールとして幅広い利用が可能となっております。図書館職員や医薬情報担当者の入門書として、また、医学・薬学・医療情報学を学ぶ学生の参考資料としても役立つように編集しております。

A4 判 約 200 ページ。

本ガイドは JAPIC 会員機関の業務担当者宛てに刊行次第、1 部お送りさせていただきました。このほかにご希望の方に本体は無料でご提供いたします。下記宛に送付先、必要部数を明記して FAX でお申し込みください。着払い宅急便でお送りします。

FAX 03-5466-1818 （財）日本医薬情報センター(JAPIC)附属図書館

（図書館 TEL.03-5466-1827）



「ADVICE」(医薬品副作用文献情報集)2001 [I] [II] のまとめ

平成 14 年 4 月 30 日発行の「ADVICE」2001 [I] [II] <医薬品別副作用文献索引編>に、2001 年 1 年間の雑誌別副作用文献採択数、薬効別副作用文献数、器官別副作用報告数を付録として掲載致しました。その一部を以下にご紹介します。

採択雑誌 328 誌、採択文献 12,958 件中、副作用採択文献は 2,695 件 (20.8%) でした。

2000

・副作用が多かった医薬品 は、

prednisolone (168 件) cisplatin (96 件) ciclosporin (74 件) methylprednisolone (69 件) fluorouacil (59 件) corticosteroids (58 件) tacrolimus (57 件) interferon alfa (50 件) cyclophosphamide (46 件) methotrexate (45 件) 等で、2000 年版とほぼ同傾向でした。

・副作用報告の多かった雑誌 は、

癌と化学療法 (116 件) 皮膚科の臨床 (52 件) Prog.Med. (51 件) Internal Medicine (44 件) 新薬と臨床 (42 件) 麻酔 (40 件) 臨床皮膚科 (37 件) 臨床麻酔 (37 件) Therapeutic Research (36 件) 今日の移植 (34 件) 臨床医薬 (32 件) 等でした。2000 年版と比較すると、Prog.Med.、Internal Medicine の副作用報告の割合が上昇しています。

・器官別副作用発現件数 の多い順は、

胃腸系障害 (1,102 件) 一般的全身障害 (1,014 件) 自律神経系障害 (785 件) 中枢末梢神経系障害 (542 件) 肝臓胆管系障害 (515 件) 皮膚付属器官障害 (509 件) 血小板出血凝血障害 (451 件) 代謝栄養障害 (424 件) 白血球網内系障害 (421 件) 等で、2000 年版とほぼ同傾向でした。

・副作用の多かった薬効分類名 は、

その他の腫瘍用薬 (442 件) 副腎ホルモン剤 (343 件) 精神神経用剤 (245 件) 他に分類されない代謝性医薬品 (228 件) 代謝拮抗剤 (206 件) 解熱鎮痛消炎剤 (186 件) 抗腫瘍性抗生物質製剤 (106 件) 主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの (149 件) 等で、2000 年版とほぼ同傾向でした。

なお、表出していませんが、**高頻度出現副作用症状** は、

嘔吐 (307 件) 白血球減少 (281 件) 下痢 (262 件) 悪心 (243 件) 嘔気 (224 件) 発熱 (201 件) 状態悪化 (201 件) 血小板減少 (193 件) 骨髓抑制 (141 件) 肝機能障害 (137 件) 頭痛 (135 件) 好中球減少 (133 件) 食欲不振 (130 件) 薬疹 (129 件) 等でした。

以上、2001 年版の医薬品副作用の報告傾向は、各項とも 2000 年版とほぼ同様でした。

医薬品別副作用文献数（2001 年）

品 名	件 数
prednisolone	168
cisplatin	96
ciclosporin	74
methylprednisolone	69
fluorouracil	59
corticosteroids	58
tacrolimus	57
interferon alfa	50
cyclophosphamide	46
methotrexate	45
propofol	42
haloperidol	39
etoposide	38
paclitaxel	38
azathioprine	37
carbamazepine	34
carboplatin	33
mitomycin	31
cytarabine	26
aspirin	25
lidocaine	24
mizoribine	24
irinotecan	23
docetaxel	22
heparin	22
amiodarone	21
diclofenac	21
doxorubicin	21
risperidone	21
minocycline	20
phenobarbital	19
vincristine	19
betamethasone	18
fentanyl	18
fluvoxamine	18
warfarin	18
ethanol	17
interferon beta	17
IVH	17

雑誌別副作用文献採択数（2001 年）

雑誌名	件 数
癌と化学療法	116
皮膚科の臨床	52
Prog. Med.	51
Internal Medicine	44
新薬と臨床	42
麻酔	40
臨床皮膚科	37
臨床麻酔	37
Therapeutic Research	36
今日の移植	34
臨床医薬	32
Jpn. J. Clin. Oncol.	31
小児科臨床	30
Pharma Medica	29
Int. J. Hematol.	28
臨床と研究	28
精神医学	26
日本臨床外科学会雑誌	25
臨床眼科	24
臨床血液	22
精神科治療学	21
ペインクリニック	21
医療薬学	20
日本消化器病学会雑誌	20
皮膚	20
あたらしい眼科	19
腎と透析	19
西日本皮膚科	19
日本胸部臨床	19
泌尿器科紀要	19
整形外科	18
脳と発達	18
医学と薬学	17
移植	17
心臓	17

器官別副作用数（2001 年）

検索コード	名称の先頭	件数
4.1.9	胃腸系障害	1,102
4.3.7	一般的全身障害	1,014
4.1.4	自律神経系障害	785
4.1.3	中枢末梢神経系障害	542
4.2.0	肝臓胆管系障害	515
4.1.0	皮膚付属器官障害	509
4.3.0	血小板出血凝血障害	451
4.2.1	代謝栄養障害	424
4.2.9	白血球網内系障害	421
4.3.9	抵抗機能障害	383
4.1.8	精神障害	368
4.3.1	泌尿系障害	349
4.2.8	赤血球障害	293
4.2.3	心臓血管障害	285
4.2.7	呼吸系障害	269
4.2.6	心臓外血管障害	154
4.2.5	心拍数心リズム障害	153
4.1.5	視覚障害	149
4.1.1	筋骨格系障害	145
4.2.4	心筋心内膜心膜心臓弁障害	145
4.3.8	適用部障害	89
4.2.2	内分泌障害	76
4.3.6	新生物	70
4.3.3	女性生殖障害	57
4.1.6	聴覚前庭障害	31
4.1.7	その他の特殊感覚障害	30
4.1.2	膠原障害	21
4.3.2	男性生殖障害	17
4.3.4	胎児障害	8
4.3.5	新生児乳児障害	7

薬効別副作用文献数（2001 年）

薬効コード	薬効名	件数
429	その他の腫瘍用薬	442
245	副腎ホルモン剤	343
117	精神神経用剤	245
399	他に分類されない代謝性医薬品	228
422	代謝拮抗剤	206
114	解熱鎮痛消炎剤	186
424	抗腫瘍性植物成分製剤	155
613	主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの	149
111	全身麻酔剤	110
423	抗腫瘍性抗生物質製剤	106
131	眼科用剤	102
625	抗ウイルス剤	102
112	催眠鎮静剤，抗不安剤	101
421	アルキル化剤	88
113	抗てんかん剤	86
212	不整脈用剤	73
214	血圧降下剤	73
121	局所麻酔剤	70
249	その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む）	69
339	その他の血液・体液用薬	63
116	抗パーキンソン剤	61
52	漢方製剤	54
333	血液凝固阻止剤	50
449	その他のアレルギー用薬	49
634	血液製剤類	47
622	抗結核剤	42
218	高脂血症用剤	41
211	強心剤	33
217	血管拡張剤	33
332	止血剤	32
611	主としてグラム陽性菌に作用するもの	32
811	あへんアルカロイド系麻薬	32
396	糖尿病用剤	31
232	消化性潰瘍用剤	29
264	鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤	29
32	滋養強壮薬	27
213	利尿剤	26
219	その他の循環器官用薬	26
616	主として抗酸菌に作用するもの	26

（医薬文献部門 TEL.03-5466-1823）

「2001 年医薬品製造(輸入)承認品目一覧」発行のお知らせ

JAPIC では、厚生労働省から日本製薬団体連合会を通じて医薬品の製造(輸入)承認資料を入手し、毎月「国内医薬品添付文書情報」に「医薬品承認情報」として掲載し、更に 1 年分をまとめて「医薬品製造(輸入)承認品目一覧」(1986 年創刊)を作成しております。

この度、厚生労働大臣の承認に係る医薬品 2001 年分を掲載した 2001 年版を発行致しました。編集内容は、ご利用頂きやすいよう医療用(1,377 件)、一般用(1,023 件)別に、それぞれ商品名の五十音順で配列しております。

ご購入をご希望の方は、FAX にて下記宛にお申込み下さい。

会 員 10,000 円 / 1 部(消費税別) 非 会 員 20,000 円 / 1 部(消費税別)

申込・お問い合わせ先：業務部 TEL.03-5466-1812 FAX.03-5466-1814

(添付文書部門 TEL.03-5466-1826)





◀ 新着資料案内 - 平成 14 年 4 月受け入れ ▶

この情報は JAPIC ホームページ <<http://www.japic.or.jp>>でもご覧頂けます。

お問い合わせは図書館までお願いします。複写をご希望の方は所定の申込用紙でお申し込み下さい。

電話番号 03-5466-1827 Fax No.03-5466-1818

- 図 書 -

1. 米国 IND マニュアル - 米国における治験申請に係る薬事規制の手引き
2001 110p \ 2,000
2. British national formulary 43
British Medical Association 2002 818p \ 5,130
3. EMBASE List of journals indexed 2002
Elsevier 2002 375p
4. FASS 2002 Forteckning over humanlakemedel
Anna-Greta Hedstrand LINFO 2002 1,712p
スウェーデンの医薬品集。スウェーデン国内で販売されている輸入品を含む
全医薬品についての情報が収載されており、価格も調べることができる。
5. 保険薬事典 - 薬効別薬価基準 平成 14 年 4 月版
2002 623p \ 4,400
6. 医学略語辞典
2001 383p \ 3,600
7. 一般用医薬品承認申請照会事例集
2001 226p \ 3,900
8. 医療用医薬品品質情報集 (平成 14 年 3 月版) 付録 日本薬局方外医薬品
規格第三部
2002 173p
9. Japan's specifications and standards for food additives 7th ed.
2000 375p \ 47,619
10. 今日の治療指針 2002 私はこう治療している (Vol.44)
2002 1,527p \ 14,500

11. 今日の治療薬 解説と便覧 2002

2002 1,046p \ 4,600

12. Martindale :The complete drug reference 33rd ed.

(Pharmaceutical Press) 2002 2,500p \ 70,250

13. ステッドマン医学大辞典 英和・和英（改訂第5版）

（メジカルビュー社 2002 2,681p \ 14,000

- その他 -

1. 健康を願う心は国境を越えて - 日本製薬工業協会の国際協力事業 -

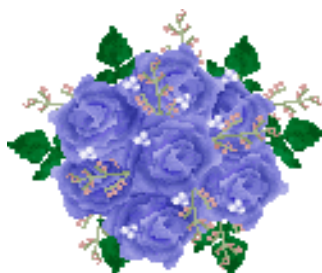
2002 44p

2. 人工骨髄の開発・実用化と免疫学の新概念確立に関する研究 平成9年度
～12年度文部省科学研究費補助金基盤研究（A）(1)研究成果報告書

650p

3. 成人院内肺炎診療の基本的考え方

2002 68p





5 月上旬は初夏の陽気が続き、4 月の温かったことを思うとこのまま早い夏を迎えることになると思いましたが、一転中旬になると肌寒い平年の 4 月並みの陽気となり、今年も相変わらず不順な天候が続いて、体調管理の難しさを味わっております。

楽しみにしていたゴールデンウィークも過ぎて、5 月は休みが多かったことと業務の忙しさも加わり、あっという間に終りそうです。

国会では、次々と問題がおこり法案の審議が進んでいないようです。当センターにも大きな影響が見込まれる医療制度改革関連法案の行方も気がかりです。

当センターでは、新しい会長・理事長が 4 月に就任し、新執行部が発足しました。役職員一同、平成 13 年度の事業報告・決算報告書の作成、平成 14 年度の事業計画に基づく事業の執行体制の整備、平常業務では学会開催シーズンを迎えて通常より多い学会情報の提供、添付文書情報管理システムの開発とあわせて、添付文書データをデータベースとして扱いやすいように、記述言語を SGML から XML へ移行する作業などのため連日遅くまで取組んでおります。

今年度から名称を新たにして、5 月 28 日（火）に東京で、6 月 6 日（木）に大阪で業務担当者の方、各種サービスをご利用の方々を対象に「JAPIC ユーザ会」を開催させていただきます。ユーザ会では平成 14 年度事業計画、各種サービスの概要を担当者より説明させていただき、ご参加いただいた方々からのご質問、ご意見を受け賜わることとしております。

平成 13 年度の事業報告、収支決算については、6 月 3 日（月）に開催の理事会、6 月 7 日（金）に開催の評議員会でそれぞれご審議いただくことにしております。

（M.T）





- ・平成 14 年 5 月 1 日から 5 月 31 日の期間に提供しました情報は次の通りです。
- ・出版物がお手許に届いていない場合は当センター業務部（TEL.03 - 5466 - 1812）にお問い合わせ下さい。

情 報 提 供 一 覧	発行日等
<出 版 物 等>	
1. 「医薬関連情報」5月号	5 月 3 1 日
2. 「Regulations View」No.81	5 月 3 1 日
3. 「CONTENTS」No.1501～1504	毎週月曜日
4. 「国内医薬品添付文書情報」No.194	5 月 2 1 日
5. 「日本医薬文献抄録集」01シリーズ版（12） 「日本医薬文献抄録集」02シリーズ版（1）	5 月 1 3 日 5 月末予定
6. 「医薬品副作用文献速報」6月号	5 月 2 3 日
7. 「JAPIC NEWS」No.218	5 月 3 1 日
8. 「JAPIC医薬資料ガイド」2002年版	5 月 1 6 日
9. 「ADVICE」(医薬品副作用文献情報集)2001 []	4 月 3 0 日 (前号記載ℓ)
<速報サービス>	
1. 「各国副作用関連情報誌のコンテンツ速報FAXサービス」	随 時
2. 「医薬関連情報 速報FAXサービス」No.337～340	毎 週
3. 「JAPIC - Q（医薬文献・学会情報速報サービス）」	毎 週
4. 「JAPIC Daily Mail（外国政府等の医薬品・医療用具の 安全性に関する措置情報サービス）」No.242～262	毎 日

デ ー タ ベ ー ス 一 覧 1 ～ 7 のデータベースのメンテナンス状況はJIPホームページ (http://Infostream.jip.co.jp/) でもご覧いただけます。		更 新 日
<JIP e-InfoStreamから提供>		
1. 「 JAPICDOC速報版 (日本医薬文献抄録速報版) 」		5 月 8 日
2. 「 JAPICDOC (日本医薬文献抄録) 」		5 月 8 日
3. 「 ADVISE (医薬品副作用文献情報) 」		5 月 8 日
4. 「 MMPLAN (学会開催予定) 」		5 月 1 0 日
5. 「 SOCIE (医薬関連学会演題情報) 」		5 月 8 日
6. 「 NewPINS (新添付文書情報) 」 (月 2 回更新)		5 月 1 日 5 月 1 4 日
7. 「 SHOUNIN (承認品目情報) 」		5 月 1 4 日
<JST JOISから提供>		
「 JAPICDOC (日本医薬文献抄録) 」		5 月中旬

当センターが提供する情報を使用する場合は、著作権の問題がありますので、その都度事前に当センター業務部 (TEL.03 - 5466 - 1812) を通じて許諾を得て下さい。

===== 財団法人 日本医薬情報センター
 禁無断転載 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-12-15
 JAPIC NEWS 1984.4.27 No.1 発行 長井記念館 3 階
 毎月 1 回(最終金曜日)発行 TEL 03(5466)1811 FAX 03(5466)1814